

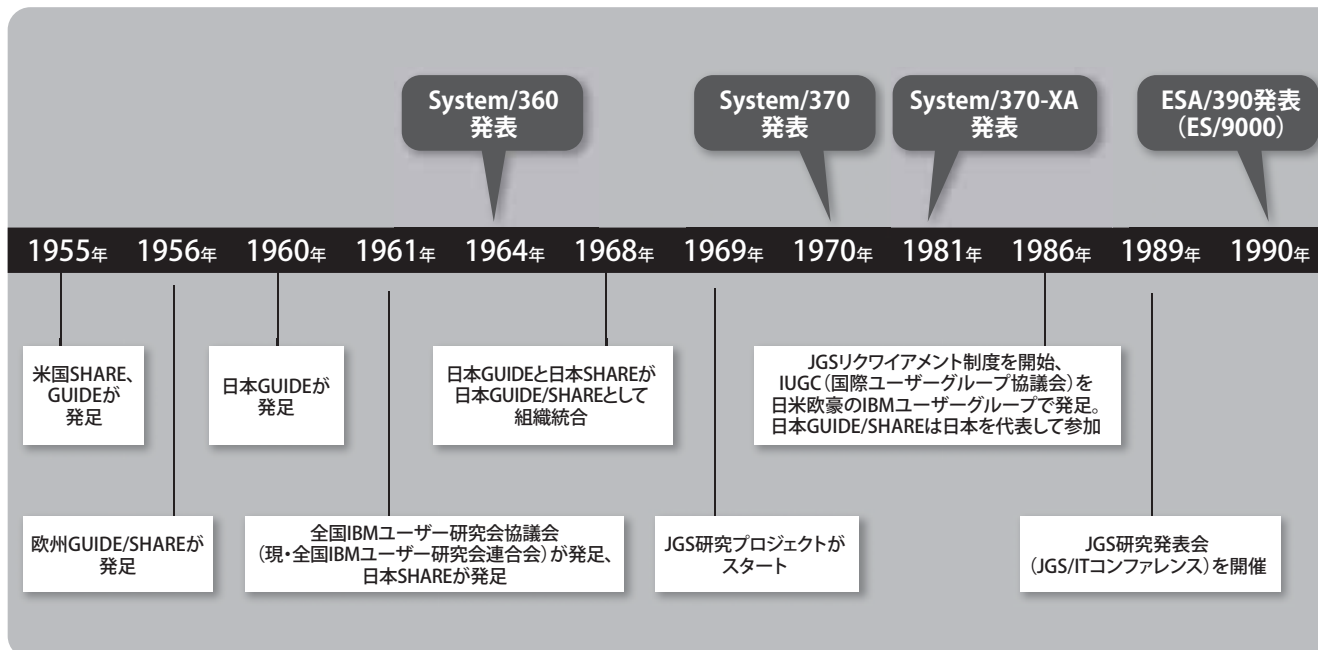
日本GUIDE/SHARE委員会 (JGS)



メインフレームと共に歩むユーザー団体



図1. JGS年表



日本GUIDE/SHARE委員会(以下、JGS)は、メインフレームの黎明期に発足したIBMユーザー団体です。System zより一足先の2011年に創立50周年を迎えました。長い歴史を誇るだけあって、「日本ガイドシェア」と呼んだり、「ガイドシェア」と略したり、また「JGS」と呼んだり、いろいろな呼び方がありますが、本稿ではJGSに統一します。

JGSは発足当時より、IBMメインフレームと共に歩んできましたが、時代とともにユーザー企業の環境も変化してきており、JGSで議論されるテーマも多様化して多岐にわたります。しかしながら、企業の基幹システムの開発・運用に関わるメンバーが多く、メインフレーム関連のテーマが引き続き中心となっています。

JGSでは、常にユーザーの立場から「ユーザー企業に必要なIT技術とは何か」を問い続けてきました。ユーザー同士のコミュニティとして横のつながりを大切にするとともに

に、JGS研究プロジェクト活動によってIT技術者の育成やスキル向上にも努めています。

JGSの目的と歩み

企業のビジネス活動では、ITをいかに有効活用するかが大きな課題です。IT利用の形態も、IT技術や製品、ITの関与する社会動向も、常に大きく変化を続けています。IT利用を常に積極的に展開する企業技術者のコミュニティとして、JGSが存在します。

JGSは、異業種交流による技術者の研究集団であり、日本IBM技術陣との強い提携と共に、実践的なユーザー集団としての高い見識を持って、参加各社の発展への力強いパイプとなるように活動しています。

JGSの前身は、日本におけるIBMユーザー団体の先駆けである「日本GUIDE」(1960年発足)、「日本SHARE」(1961年発足)です(図1)。

いずれも、米国のIBMユーザー団体である「GUIDE」(Guidance for Users of Integrated Data Processing Equipment: 米国IBM事務計算用コンピューター・ユーザー団体、1955年発足)、SHARE (Society for Help to Avoid Redundant Effort: 米国IBM科学技術計算用コンピューター・ユーザー団体、1955年発足)にその活動の範を求め、「会員相互、およびIBMと情報システムに関する知識・経験の交換を図ること」などを活動目的として誕生しました。

以来、ユーザーの立場からその時代ごとに企業に必要なIT技術を模索し続け、2005年には、全国IBMユーザー研究会連合会(全国研)とも組織統合して現在に至っています。

JGSとSystem z

GUIDEは事務計算用コンピューターのユーザー団体であ

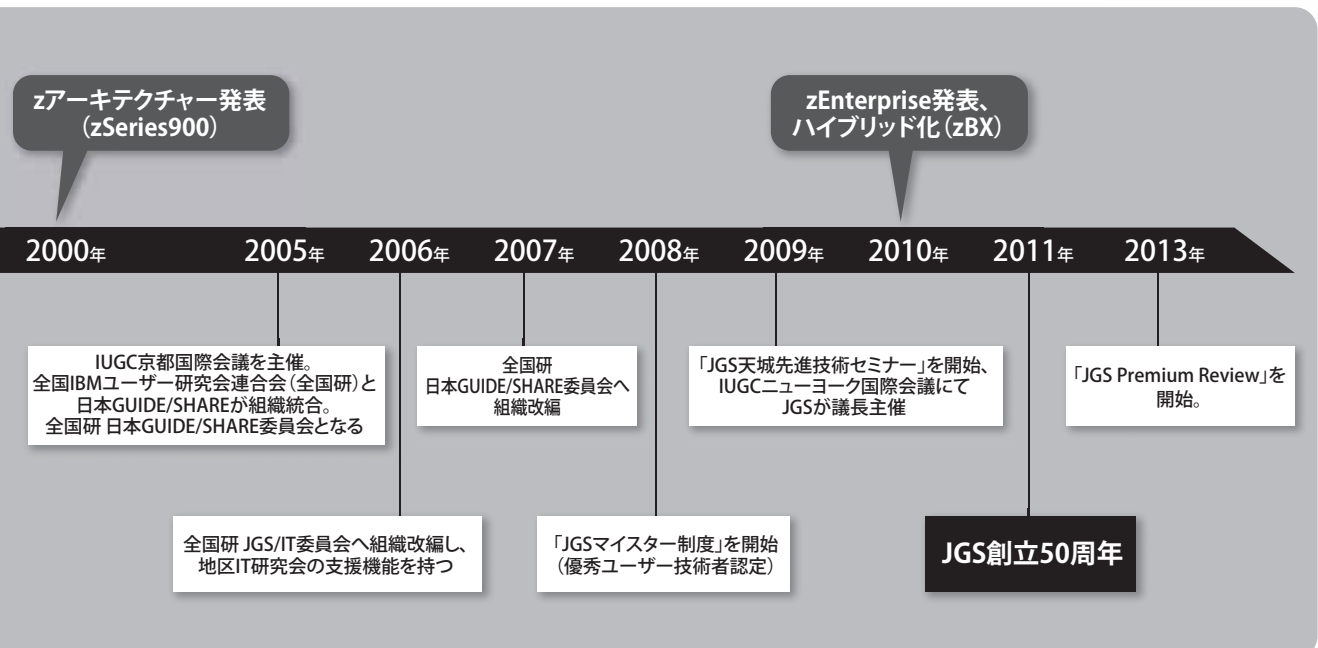


表1. 2014年度のJGS研究テーマ一覧

TeamNo.	カテゴリ	チーム名	テーマ名
CL-003	クラウド	スマートフォン/タブレット	スマートフォン/タブレットが望むこれからの世界
CL-004		モバイル・アプリケーション開発研究	モバイル・アプリケーション開発研究
CL-005		クラウド環境における大規模運用管理	ChefやPuppet, ならびにそれらに類する技術による大規模運用管理
CL-008		クラウドにおける認証、連携技術の実際	ハイブリッド・クラウド内の接続、認証、連携技術について研究
CL-010		高速開発	高速開発の実際
CL-011		ネットワークの仮想化研究	ネットワークの仮想化を研究
CL-012		仮想データベース	クラウド環境における仮想データベースの利用について考える
IP-001		IT企画	BABOKを活用した超上流工程の研究
IP-002	ビッグデータ活用型アナリティクスの研究		ビッグデータ活用型アナリティクス
IP-006	RDBMS/NoSQL/NewSQL		クラウド、ビッグデータで活用されるRDMSとNoSQL/NewSQLについて研究
IP-007	ITスキル人材育成		ITSSやUISSの次なる姿を研究する
IP-008	高速開発		高速開発の実際
IP-009	運用もアジャイルに、DevOpsの適用		アジャイル開発のアイデアを運用部門に広げるDevOpsの適用研究
IP-011	次世代基幹系システム・アーキテクチャー		IBMが提唱する次世代バンキング・システム・アーキテクチャーを研究
IP-013	リーン・スタートアップ		リーン・スタートアップによるビジネス起業
IP-014	テレワーク実現策検討		ITによるテレワーク実現策を考える
PM-001	プロジェクト・マネジメント		スクラム開発
PM-002		レガシー・マイグレーションからモダナイゼーションへ	効率的なシステム検証方法の検討
PM-005		全開発工程における要件のトレーサビリティ	全開発工程における要件のトレーサビリティ
PM-008		インフラ・プロジェクトにおける品質管理	インフラ・プロジェクトにおける品質管理
PM-010		効果的なチーム・ビルディング手法について	効果的なチーム・ビルディング手法について
PM-011		開発チームとインフラチームの最適な協働手法	開発チームとインフラチームの最適な協働手法
RM-001	リソース・マネジメント	データ・サイエンティスト	ビッグデータ時代のデータ・サイエンティスト育成について研究
RM-002		レガシー・マイグレーションからモダナイゼーションへ	IBM PureSystemsの運用管理
RM-007		プロジェクトにおける関係性の向上	人と人との関係性を良くしてことを探求する
RM-008		クラウド時代のインフラ・エンジニア	クラウド時代のインフラ・エンジニアに求められる役割を研究
RM-009		若手System z技術者の育成およびスキル継承	System z(z/OS)の若手技術者育成及びベテランからのスキル継承を研究
SP-002	システム製品	レガシー・マイグレーションからモダナイゼーションへ	基幹システムモダナイザー
SP-003		大規模データに対するDB2パフォーマンス・チューニングの研究	DB2パフォーマンス・チューニング for BigData
SP-004		Big Dataに対応する大容量・高性能ストレージの研究	Big Dataに対応する大容量・高性能ストレージの研究
SP-007		バッチジョブ・スケジューラーの統合運用	バッチジョブ・スケジューラーの統合運用方法
SP-015		モバイル開発環境の研究	モバイル開発環境の研究

り、SHAREは科学技術計算用コンピュータのユーザー団体でした。しかし、事務計算と科学技術計算の両方に対応したSystem/360の登場により、ユーザー団体としても一つになり、GUIDE/SHARE(ガイドシェア)として組織統合することになりました。

発足当時はメインフレームしかない時代でしたが、その後、ミニコンやオフコン、UNIXやPCサーバーの登場により、JGSが対象とするユーザー企業のIT環境は多様化しました。そのため、研究テーマや活動範囲も時代の変化とともに広がってきています。

System zは新機種が出るたびに最新技術や新機能が搭載されます。それらを活用するための研究や情報交換の場として、1969年からは「JGS研究プロジェクト」が開始されました。

また、IBMから提供されるメインフレーム製品では機能が不足してい

る、あるいは使いにくいなどのユーザー企業から出される改善要望などを、JGSで取りまとめてIBMに提出する「JGSリクワイアメント制度」も1986年から開始しています。ユーザー企業が個別に改善要望を出すよりも、複数ユーザーでまとめて出す方が効果が期待できるからです。

JGS研究プロジェクト

JGS研究プロジェクトは、活動を通じて「企業に求められるIT技術者」の育成に努めることが目的です。

では、企業に求められるIT技術者というのは、どのような技術者像なのでしょう。JGSでは、「企業」「業界」「(国際)社会」の3つの切り口から技術者像を描きました。

今、求められているのは、企業にとってLeadershipを発揮でき、それぞれの業界のTechnologyを保有し、国際社会に貢献できるGlobalismを持つ技術者です。

● 企業=Leadership

一つの研究テーマに、さまざまな業種・規模のユーザーが集まり、活発な議論が展開されます。そしてその成果を論文という形にまとめ上げることで、プロジェクトを牽引するリーダーシップが醸成されます。

● 業界=Technology

ユーザーの目線・立場にこだわり、技術を単なる知識として理解するのではなく、ビジネスに貢献できる技術として身につけることを目標に研究しています。



● 社会=Globalism

世界のIBMユーザーグループに対する窓口として、国際的な交流活動を行っています。今後、グローバル化していく日本の企業において、IT技術者のグローバル化とは何なのかを探っていきます。現在、提出する論文概要は英語でも記述されています。

2014年度の研究テーマ

JGS研究プロジェクトのテーマは、JGS委員や過去の研究プロジェクト参加者からの声を反映させるなど、現場として真に議論すべき内容をあぶりだし、決定しています。

2014年度の研究プロジェクト・チームは、「10カテゴリー、65テーマ」から募集し、32チームが決定されました。これまでは100以上のテーマを準備してきましたが、申込者が分散してしまうため、今年度はテーマを絞って募集しております(表1)。

JGS研究プロジェクト・チームは年間を通して共同研究を行い、10月の「JGS IT-Conference」でセッション形式で論文を発表します。そこで優秀論文に選ばれると、翌年5月のU研のイベントである「IBMユーザー・シンポジウム」で発表することになります。

JGS研究プロジェクトは、ユーザー企業としてのITにおける問題を共に考え、解決策を見出すための活動です。ぜひご参加ください。

[JGSホームページ]
<http://www.uken.or.jp/jgs/>

[お問い合わせ]
jgshq@jgs.or.jp



平成25年度
全国研日本GUIDE/SHARE委員会
委員長
三菱総研DCS株式会社
代表取締役 副社長

円実 稔
Minoru Enjitsu